

くしろ



釧路の畑作

主に弟子屈町の約1,300haの農地で、秋まき小麦、ばれいしょ、てんさいの3品目を中心に作付けされています。近年ではそばの面積が拡大され、新規に大豆の栽培にも挑戦しています。一戸当りの作付面積の平均が約80haと大型経営が特徴です。

	所在地	電話・FAX	Eメールアドレス
釧路農業改良普及センター本所	〒088-2313 川上郡標茶町常盤8丁目5番地	Tel:015-485-2514 Fax:015-485-2249	kusirokita-nokai.11 @pref.hokkaido.lg.jp
釧路東部支所	〒088-1365 厚岸郡浜中町茶内橋北東31番地	Tel:0153-65-2021 Fax:0153-65-2037	kushiroto-nokai.11 @pref.hokkaido.lg.jp
釧路中西部支所	〒084-0917 釧路市大楽毛127番地	Tel:0154-57-8306 Fax:0154-57-4702	kushirochu-nokai.11 @pref.hokkaido.lg.jp

ホームページアドレス：<http://www.kushiro.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.htm>

重点活動の紹介（東部支所）

乳質改善学習会～我が家の搾乳どうなの？～

2月14日に厚岸町若松地区で、地域女性部を対象に乳質改善学習会を実施しました。

「私達の搾乳作業を撮影してもらい、それを参加者で協議・改善したい」という依頼を受けて、事前に地区内の2戸の搾乳作業を撮影し、当日はそれらを見ながら、出席した6名で意見交換を行いました。

普及センターからは、撮影した搾乳方法についての解説と搾乳手順の基本を説明し、協議の手助けになるように努めました。



ミルカーの装着方法について耳を傾ける出席者



搾乳手袋の意義について説明

出席者からは「我が家は話し合いで搾乳者全員の作業を統一している」、「パドックを改善して牛体が汚れないようにしている」等の意見が出て、自ら考え改善しようという思いが伝わる有意義な学習会となりました。

これらの取り組みについては、今後も学習会を継続したいとの意向を受け、引き続き支援を実施していきます。

地域の話（中西部支所）

根釧農試と連携した活動を展開

普及センターでは、農業者からの技術的な要望を汲み取り、根釧農試と連携した支援を行っています。

1つ目は、5月26日にJA阿寒青年部で開催した施設の基礎学習会です。この中で、牛舎通路の滑り止め対策としてコンクリートカッターによる溝切りの提案があり、出席者から「取り組みたい」との声があがりました。

そこで、7月31日に再び試験場の協力を得て取組希望農場で実演会を開催し、参加した2農場でも取り組みました。



コンクリートカッターによる通路の溝切り



削蹄講習会の実施

2つ目は、7月26日に鶴居村の重点地域の農場で開催された削蹄講習会です。当日は、試験場の方による削蹄の実演を通して、蹄の構造や適切な削蹄方法について学び、農業者と関係機関で蹄の重要性について理解を深める貴重な機会となりました。

今後も、地域に向けた提案と農業者のニーズに沿った活動を進めていきます。

釧路管内各地で行われた草地の植生調査の結果は雑草の割合が4割前後を占め、牧草の生産量や栄養価を低下させるものでした。このため植生改善が必要となりますが、更新年の牧草収量の確保、作業機の有無、経費、労働力などが理由となりなかなか進んでいない現状があります。

そこで、普及センターでは、草地更新や植

生改善を積極的に取り組まれている管内の農業者に聞き取りを実施し、「取り組みの特徴」、「草地更新、草地管理へのこだわり」、「植生改善に対する感想、実感」をまとめたパンフレットを作成しました。今後、植生改善や草地管理の場面で活用します。

お問い合わせは普及センターまでどうぞ。



パンフレット内容

JAしべちゃ青年部フロンティア21では、イオン釧路昭和店で平成26年より、しべちゃフェアにて牛乳などの販売を行っています。きっかけは、以前に“しべちゃ牛乳”PRのため、札幌で牛乳の無料配付をしたところ、「ラッキー、牛乳を買わなくて済む。」という声に、「手間を掛けて搾った牛乳を無料で配る意味はあるのか。」「自分達で搾った牛乳を自分達で売ろう！」と活動を始めました。

しべちゃ牛乳の販売と共に、酪農を知って



しべちゃフェア



話し合いの様子

もらうため牛乳パックの展示物を作りPRもしました。今までは評判は良かったものの赤字となっていました。4回目の今年は仕入れ交渉を行い、黒字にすることが出来ました。

自分達で販売するという目標は達成しました。そして、改めて自分達が搾る牛乳が求められていることを知りました。

今後の取り組みは自分達の経営の中の課題を改善し生産を安定させることを目標としています。

今年の夏は昨年とは打って変わって、7月の猛暑が記憶に新しい事と思います。

弟子屈町で今年4月より就農を開始した辻 隆二・友美夫妻は猛暑を乗り切るため、牛舎の換気改善を就農支援チームと共に取り組みました。

換気扇を設置して牛の快適性は向上し、さらにカラス、ハトなどの進入対策へと取組を広げましたので紹介致します。



辻夫妻 営農頑張ります！



市販の防鳥テグスを利用

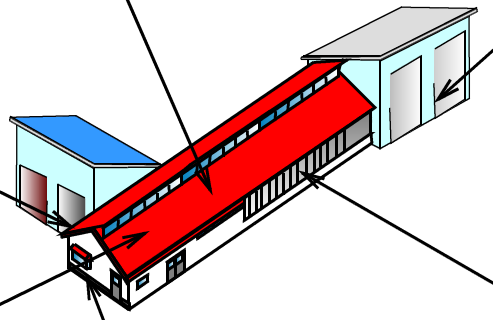
天窓にはテグス4段張り。最下の段を低くする事で鳥の出入りが激減！



入れない“カー!!”



屋内の扉も木枠とネットの扉で風の通り抜けアップ



乾乳・分娩舎は扉を網カーテンにして舎内に風を通していています。



4台の送風機を天井に設置。対頭式の牛の鼻面を風が通り抜けます。



入り口はワイヤーにネットをつるす



窓を取り外しネットを利用して網戸を設置しました。



風の死角には扇風機を配置

各扉上部にワイヤーを張り防鳥ネットをカーテン状に下げました。また、垂木で枠を作り網戸を作成。
出入りの無い天窓はテグスで防御など、防鳥を万全に快適空間を牛舎内に作りました。
力作です！



快適だな～！